

ゆきの灯り

第84号
令和6年1月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

生涯学習マスコット：マナビィ



新春来福



新年のご挨拶

油木協働支援センター長 今岡一憲

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、油木協働支援センターの運営並びに行事等に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

本年につきましても、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルスの感染も第5類に変更になり、徐々にではありますが地域の活動や行事も行われだしました。

昨年は、4年ぶりに「ゆきふるさとまつり」を自治振興会をはじめ住民の皆様方のご理解とご協力をいただき、賑やかに開催することができました。改めてご協力にお礼を申し上げます。

また、旧油木百彩館周辺の賑わい創出を目的とした「ゆき軽トラ朝市」や地元美術家の作品を紹介する「展示会（油木10人展）」の開催、油木の史跡・文化財等を紹介するガイドブックの執筆活動も終了し、製本されて油木管内の世帯へ全戸配布することができました。各々の部会でも子どもから大人までを対象とした学習活動、地域活動、世代間交流活動等それぞれの活動を計画に沿い、



ゆきふるさとまつり 楽市楽座/大感謝祭

令和5年10月22日

観光・文化財ガイドブック油木編完成

地域情報部会が取り組んできた、「観光・文化財ガイドブック油木編」が完成しました。各戸配布をしています。是非一読いただき、実際に尋ねてみて「油木」の新たな発見をしていただくと幸いです。



今年も「ゆきキッズ」の活動で制作した「しめ飾り」が、油木コミュニティセンターの玄関を飾り、新しい1年が始まりました。

令和5年11月25日（しめ縄作り）

展開していただきました。「にしかわ化石館」は、開館以来、来場者千人を迎えようとしています。社会教育施設として、住民の方々の学習拠点となり、活動の一層の充実と啓発に取り組んで参ります。本年も、各部会をはじめとして住民の皆様方と連携を図りながら、「住民主導のまちづくり」に向けて取り組んでいきたいと考えております。改めて、令和6年も住民の皆様方からのご指導とともに、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

自治振興会対抗グラウンドゴルフ大会開催！

おめでとうございます！！

★団体の部

- 1位 南ゆきB
- 2位 仙養
- 3位 南ゆきA

★個人の部

- 1位 山本剛久さん
- 2位 井上孝子さん
- 3位 本多 稔さん



12月6日（水）、「第1回自治振興会対抗グラウンドゴルフ大会」が開催されました。（於：油木スポーツ広場）前日から降り続いた雨が心配されましたが、当日は青空が広がり寒さも和らいだ会場では、7チーム42名の精鋭選手団が団体・個人の優勝を目指して熱戦を繰り広げました。試合中には、各コースから「ホールインワン」の声や拍手も沸き上がり、会場は大いに盛り上がりました。優勝は、団体の部「南ゆきB」個人の部「山本剛久さん」でした。大会開催に係り、ご協力をいただいた方々に感謝申し上げます。



神石高原中学校「地域ふれあい行事：化石発掘体験(令和5年11月8日)」感想より(抜粋)

—学社連携・融合における『社会教育』は、「地域に存在するすべての教育資源」のことです—



●絶滅したと思われていたシーラカンスが、まだ生きていたという事実はとても魅力的だった。
●作業を手伝ってもらったり、化石について話したりして、地域の人と関わる事ができた。
●新しい発見があつて面白かったし、化石を持って帰れて思い出をさせたので良かった。
●普段、見たり触ったりすることはあまりないので、貴重な体験ができてすごく嬉しかった。
●難しい作業という事はわかってはいたけど、いざやってみると小さい化石を割らずに掘るのが難しく、石のかたまりが粉々になった。
●みんなが採った化石を比べてみても、自分の採れなかった化石もあったので、すごく面白くて、何回か来たことがあるのもう一回来たいと思う事ができた。
●人類が生まれるよりも前から生き物がいて、それが今化石となつて出てきたことが、とてもすごいと思った。

授業の充実
開かれた学校



生涯学習機会の充実
学習成果活用の拡充

学校 ↔ 地域

子どもたちにとっては・・・
地域や人々への関心・
愛着・信頼感を培うこととなる

大人の教室

パン教室③

蕎麦打ち体験教室

12月5日(火)、平田サエ子先生の指導で「焼き込み調理パン」「パンブキンポット」作りを学びました。

今回のパンは今までと異なり、丸めるだけでなく四角に成形したり、棒状にしたりと作業過程も多くありましたが、先生の指導を受けて熱心に楽しく調理することができました。

12月20日(水)、前原孝史先生の指導で、年越しに向けて「蕎麦打ち」の技術を学びました。

先生が一連の作業の手本を披露したのち、参加者の蕎麦打ちが始まりました。先生から特に蕎麦粉の空気を抜くことや延ばすことなどのアドバイスを受けながら、「天空のそば作り」の極意を学びました。



「チョコレートレッスンII」
2月11日(日) 13:30 ~ 17:00
詳細はHP・11 Ch

12月のゆきキッズ

12月の「ゆきキッズ」は3回開催され、師走の行事等に合わせた体験活動を行いました。

■料理教室④(12月2日)

大西智子先生の指導で、「クリスマスケーキ」作りに挑戦しました。生クリーム等のトッピングを工夫しながら、美味しく仕上げました。

■蕎麦打ち教室(12月9日)

藤井優晴先生と蕎麦打ち同好会の皆さんの指導で、「蕎麦打ち」を行いました。一連の作業を体験し、完成した蕎麦を美味しくいただきました。

■お茶教室④(12月16日)

小田緑先生と神石高原町女性会油木支部の皆さんの指導で「お茶教室」を開催しました。今回は立礼式(テーブルでの盆手前)を学びました。



文化イベント「春のコンサート」

佐々木リョウ
バリAじゃんライブ
2024

チケット販売開始 1月9日(火)

3.16(土)
開場 13:30 開演 14:00

油木山村開発センター 多目的ホール

料金(全席自由) 一般 1000円
小学生以下無料
当日限定 500円のグッズ割引あり

詳細はHP/11 Ch

続報

「にしかわ化石館の標本が 広島大学へ出張」

昨年7月から9月にかけて、広島大学総合博物館が東広島市豊栄支所で開催した「県央に自然史博物館がやってくる! シーズン2」という企画展の「元素って何だろう」というコーナーに、「にしかわ化石館」所蔵の「イリジウム」という元素標本が展示されました。

「イリジウム」は約6600万年前の地層から見つかります。なぜ、世界中の同じ時代の地層から見つかるのかというと、主な原因として隕石の衝突が規模大な果敢活動と考えられますが、現在では約6600万年前に起こった恐竜絶滅の原因が、隕石の衝突によるものであることが「イリジウム」が裏付けているとされています。

東アジアでは「イリジウム」を含む地層が北海道から見つかっていますが、西川功氏がその地層の岩石を入手しておられました。「にしかわ化石館」開館にあたって、面白い標本には間違いのないものの展示の方法を思いつかなかったため、一旦収蔵庫へ保管したままになっていた「イリジウム」ですが、今回の企画展示に適合し価値のある標本ということで、油木協働支援センターの協力を得て展示されることになりました。

企画展には約3200名の来場があったそうです。神石高原町の小さな施設収蔵の標本が広島大学総合博物館の地元(東広島市)で展示され、多くの方々に見てもらえたことをとてもうれしく思います。今後このような博物館との連携や、「にしかわ化石館」の展示改装(特にイリジウム展示)に外部からお手伝いができたらと思います。

仙石庭園(東広島市) 学芸員 尾森武尊 (元地域おこし協力隊)

「県央に自然史博物館がやってくる! ?シーズン2」(令和5年7月22日~9月30日 東広島市豊栄支所)

「家庭の役割って何だろう?」(参考:香川県教育委員会「今こそ家庭教育」)

★地域で子どもを見守り育てましょう(油木協働支援センター)

〇幸せでありたい、とは誰しも思うことです。その幸せはどんな時に感じられるのでしょうか。子どもたちは、家族のみんなが仲良く健康で楽しく過ごせることを望んでいます。そんな当たり前のことが、豊かさの追求の中で見過ごされてはいないでしょうか。まずは家庭・家族の絆ですね。

〇家庭にはそれぞれ個性の異なる人格と一緒に暮らしています。誰かが一方的にがまんするのは望ましくありません。家族のみんなを思いやり、協力することを身に付けることが大事です。学校や社会で生活できる資質も家庭で養われるのです。

「家庭はすべての出発点」「家庭は大事な還る場所」



家庭では温かさと厳しさを使い分けて、子育てに臨む必要がある。絶対的な愛情の上に、そのバランスを意識することが大切。子どもにとって家庭は心のよりどころ。人生のスタート地点であると同時に、迷ったときに還って気付ける場所。

子育てチェック

- 子どもは親に気をつかっているなあ、と思うことがある。
- 家庭に仕事のストレスはもち込まないように気をつけている。

ワンポイント・アドバイス

- 1 子どもには短時間でも愛情と手をしっかりかけましょう
- 2 「いい子」のふるまいの時にこそ子どもをよく見てあげましょう
- 3 子どもとのふれあいにストレス発散法を見つけましょう